

平成23年度
(平成22年度分)

事務事業評価票

C 定型・維持管理型 No. 1009001

I 事業の概要

通常評価

I-1 事業の概要

事務事業名	北部クリーンセンター関連施設運営	所管局部課等	環境政策局適正処理施設部施設管理課
		(連絡先)	212-9820
		(評価票作成者)	施設管理課長 山本 孝
ホームページアドレス	http://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/soshiki/5-4-1-0-0_14.html		

22決算額 (千円)	23予算額 (千円)	今後の方向性		24予算額 (千円)	事務事業の内容	
		現状のまま継続			北部クリーンセンター関連施設の管理運営及びやまごえ温水プールの運営補助等を行う。	
35,177	41,052			39,782		
業務運営方法	☐ 直営	委託(補助)先の名称, 委託(補助)の内容 委託及び補助金交付先：京都市北部クリーンセンター関連施設管理運営協会 内容：北部クリーンセンター関連施設の管理運営及びやまごえ温水プールの運営補助等の委託				
	☒ 部分委託					
	☐ 部分補助等					
	☐ 全部委託					
	☐ 全部補助等					
実施根拠 (法令, 条例, 規則, 要綱等)	京都市北部クリーンセンター関連施設プール運営事業補助金交付要綱			事務事業の性格	☐ 義務的事業	☒ 任意的事業
				会計区分	☒ 一般会計	☐ 特別会計

I-2 投入量

年間経費等推移 (千円)	No.	区分	H20年度決算	H21年度決算	H22年度決算	H23年度予算	H24年度予算
	①	事業費 (千円)	36,531	37,423	35,177	41,052	39,782
		負担金補助及び交付金 (プール運営補助)	9,375	10,594	10,151	12,781	13,819
	①'	委託料 施設管理運営委託	27,156	26,829	25,026	28,271	25,963
	②	委託料が事業費に占める割合 (①' ÷ ①) (%)	74.3%	71.7%	71.1%	68.9%	65.3%
	③	人件費 (24年度は見込) (千円)	16,573	5,784	1,007	1,007	564
		職員(課長級) (人)	0.10	0.10	0.02	0.02	0.01
		職員(課長補佐級、係長級) (人)	1.20	0.20	0.02	0.02	0.02
		職員(係員) (人)	0.30	0.30	0.07	0.07	0.03
		嘱託職員等人件費 (千円)					
	④	年間経費 (①+③) (千円)	53,104	43,207	36,184	42,059	40,346
	⑤	特定財源 (市税等の一般財源以外) (千円)					
		国庫・府支出金 (千円)					
		受益者負担分(使用料, 手数料等) (千円)					
		その他 () (千円)					
	⑥	京都市年間負担経費 (④-⑤) (千円)	53,104	43,207	36,184	42,059	40,346
	⑦	受益者負担率 (受益者負担分÷④) (%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

平成23年度
(平成22年度分)

Ⅱ 評価結果

事業名 北部クリーンセンター関連施設運営

Ⅱ-2 業績評価（Ⅱ-1 市民と行政の役割分担評価は「通常評価」のため省略）

A 効率性	No.	区 分	単位	H20年度	H21年度	H 2 2 年度	
	①	利用者数		人	38,837	41,343	40,895
	②	年間経費（事業費及び人件費の合計額）		千円	53,104	43,207	36,184
	③	単位当たり経費（②÷①×1,000円）		円/単位	1,367	1,045	885
	④	単位当たり経費変動率				-23.6%	-15.3%
	分 析				評価	かなり良くなった	かなり良くなった
（コスト変動の理由等） 平成21年度と比べ、平成22年度の経費が減少したため効率性が良くなった。 利用者数が減少したが、事業費が削減でき、人件費についても業務規模に応じて人員配分を見直したため、単位当たり経費が良くなった。							
B 市民満足度	<調査の有無>		<調査方法>		<調査時期>		
	□ 有 □ 無 ■ 該当しない						
	<調査結果、現状分析等>						
C 環境保全 及び環境負荷軽減の要素	□ 環境 ■ 関連 □ 一般		<現状分析、今後の方針等> やまごえ温水プールは北部クリーンセンターのごみ焼却熱により発電した電力を有効利用している。今後もごみ焼却熱由来のエネルギーを有効利用することにより環境負荷の軽減に努める。				

平成23年度の実施状況

利用者数については増加傾向にあり、12月末時点の利用者累計についても、平成22年度から微増している。北部クリーンセンターのごみ焼却熱により発電した電力を有効利用しており、今後ごみ焼却熱を有効利用することにより環境負荷が軽減された施設運営を行っていく。

Ⅲ 今後の方向性

現状のまま継続	(今後の方向性の理由及び具体的な内容)
	引き続き経費の削減とサービスの向上に努める。また、ホームページ等の活用により広く市民に周知し利用者数を増やし、利用料収入の更なる増加を図る。